

私たちの生活に息づく美術

食卓を彩るうつわのデザイン

G型しょうゆさし

安定感のある形、握りやすいくびれ、たれにくい注ぎ口が生活用品として総合的にデザインされた



平形めし茶碗

標準的なめし茶碗より大きめで浅く、盛り付けたときの余白を楽しめるよう碗全体に模様が描かれている



B型マグアンドソーサー

取手が「B」の形をした遊び心があるデザイン、本体はシンプルな円筒形でユニークさがより強調されている



ユニバーサル多用深皿

スプーンを使ったとき、きれいにすくい取れて、外にこぼれにくいデザイン



陶磁器デザイナー・森正洋について



森正洋

[1927-2005年・嬉野市]

大学で工芸デザインを学び、出版社や窯業指導所で経験を積んだのち、長崎県波佐見町の陶磁器メーカーで器のデザインに取り組みました。「日常の生活で使う器を考え、形を創り工場で生産することにより、多くの人々とともに共有し生活することにデザインの喜びを感じる」という考えのもと、使いやすく親しみのある器を数多く生み出しました。その多くは今もつくり続け、飲食店や家庭で広く使われています。

P.152 ▶ ファンシーカップ



陶壁画「陶磁の路」
波佐見町やきもの公園